

# CONTENTS

## Chapter 1

### 補綴修復に関する迷信

迷信 1	支台歯形成は、きれいに削るのがもっとも重要である	8
迷信 2	歯冠形成時はつねに一定の歯質削除量が必要である	12
迷信 3	補綴装置のフィニッシュラインの位置は歯肉縁下であるほうが望ましい	14
迷信 4	ファイバーポストを使用すればフェルールは必要ない	17
迷信 5	根管治療後は歯が脆くなる	21
迷信 6	印象材は新しい世代のほうが精度が高い	25
迷信 7	デジタル印象はまだ固定式のクラウン・ブリッジでは実用段階ではない	28
迷信 8	歯肉圧排はつねにダブルコードで行うのが望ましい	31
迷信 9	中間欠損に対する補綴修復においてはインプラントもブリッジも 成功率は同程度である	34
迷信10	接着ブリッジを支える支台歯は多いほうがいい	37
迷信11	補綴治療の予後を左右する最大の因子は材料選択である	40
迷信12	オールセラミックスではジルコニアが第一選択である	42
解説：須田剛義(1、3～6、8、10、12)／木戸淳太(2、7、9、11)		

## Chapter 2

### 総義歯に関する迷信

迷信 1	アルジネート印象材(簡易法)よりシリコーン印象材(従来法)を使用して製作した 総義歯のほうがすぐれている	50
迷信 2	総義歯では主に機能の観点から、「従来型の両側性平衡咬合」を付与すべきである	53
迷信 3	金属床義歯はレジン床義歯よりすぐれている	57
迷信 4	インプラントオーバーデンチャーは従来の総義歯と比較してすぐれている	60
解説：土屋嘉都彦		

## Chapter 3

### 部分床義歯に関する迷信

<b>迷信 1</b>	少数歯欠損でも必ず補綴処置が必要である ……………	70
<b>迷信 2</b>	遊離端欠損においての印象採得にはオルタードキャスト法が必須である ……………	73
<b>迷信 3</b>	エーカースクラスプの支持はレストが担っている ……………	75
<b>迷信 4</b>	部分床義歯の維持装置は最小限あればよい ……………	77
<b>迷信 5</b>	ノンメタルクラスプデンチャーは従来の部分床義歯より審美性が高く、 機能面でも遜色がない ……………	79

解説：土屋嘉都彦

## Chapter 4

### インプラントオーバーデンチャー・ インプラント補綴装置に関する迷信

<b>迷信 1</b>	インプラントは天然歯より長もちする ……………	84
<b>迷信 2</b>	インプラント上部構造はセメント固定よりスクリュー固定で連結を行うほうがよい ……	87
<b>迷信 3</b>	アバットメントはジルコニアが優位である ……………	92
<b>迷信 4</b>	前歯部インプラントのアバットメントは天然歯歯根を 模倣して形態を付与するのがよい ……………	95
<b>迷信 5</b>	インプラントと天然歯では与える咬合が違う ……………	98
<b>迷信 6</b>	無歯顎の治療で患者満足度が高いのは、インプラントによる固定式補綴装置である ……	102
<b>迷信 7</b>	IODのアタッチメントはロケーターが第一選択である ……………	105

解説：須田剛義

## Chapter 5

### 咬合・口腔外検査に関する迷信

迷信 1	歯科治療において咬合がもっとも重要である	112
迷信 2	歯の形態は歯科医師の経験から決定する	115
迷信 3	歯牙形態や排列の調和・不調和に対する感覚は、歯科医師と患者で共有されている	117
迷信 4	セファロ分析は矯正治療時にしか使用できない	120
迷信 5	欠損補綴はつねに第二大臼歯まで行うべきである	122
迷信 6	適合が良い補綴修復によってカリエスリスクは減る	124
迷信 7	補綴スペースを確保するためには咬合高径を上げればよい	126
迷信 8	補綴修復にもっとも有用な咬合器は全調節性咬合器である	128
迷信 9	中心位はゴシックアーチで採得するのがもっとも精確である	131

解説：須田剛義（1～3）／木戸淳太（4～9）

#### COLUMN

支台歯の高さがいない場合の補綴方法の臨床例（須田剛義）	46
BOPT の臨床例（須田剛義）	47
総義歯製作に必要な解剖学的ランドマーク（土屋嘉都彦）	63
義歯の解剖学—上顎総義歯後縁をなんとなく決めていませんか？—（土屋嘉都彦）	64
CAD/CAM 義歯の利点と課題（土屋嘉都彦）	66
総義歯治療におけるゴシックアーチ描記法の現状（土屋嘉都彦）	68
インプラント上部構造の工夫（須田剛義）	109
フィックスディタッチブルブリッジの提案（須田剛義）	110
VisagiSMile を用いた排列・歯牙形態の決定（須田剛義）	133
顔面の調和を考慮した補綴治療（須田剛義）	134
補綴スペースの不足を解消した症例（木戸淳太）	135